

りようぶまん だら

## 両部曼茶羅について

この度、新たに普門寺本堂が再建立され、目出度く落慶法要を迎える運びとなりました。御尽力下さいました檀信徒の皆様方には、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

さきやかではございますが、その感謝の気持ちと落慶法要を記念致しまして、皆様方に「両部曼茶羅」を贈呈致します。この紙面では、簡単ではございますが「両部曼茶羅」とは何かをご説明致します。少しでもご参考になれば幸いです。

### ・曼茶羅とは

曼茶羅とはサンスクリット語（梵語）の音字語です。よって他の漢字を当てることもありませんが、一般的には「曼茶羅」の字が用いられることが多いです。その意味も多岐にわたりますが、ここでは「本質、神髄を備えているもの」という意味で捉えておくと思いがちです。

### ・両部曼茶羅とは

では、何の本質、神髄を備えているのでしょうか。それは「この世界の本質、神髄」であると同時に、「仏（ブツ）」を指す為に進むべき道の本質、神髄」を備えているということです。

前者の「この世界の本質、神髄」を説く經典に『大日経』というお経があり、後者の「仏を

目指す為に進むべき道の本質、神髄」を説く經典に『金剛頂経』というお経があります。こ

の二つのお経を真言宗ではとても大切に致します。この二つのお経の内容を図絵で表したも

のが、この「両部曼茶羅」なのです。向かって左側が「金剛界曼茶羅」、右側を「胎藏曼茶羅」と

呼びます。この二つを合わせて古来より「両部曼茶羅」と称してきました。これらは二つで一つであり、必ず真言宗では対でお祀り致します。日本には今に至るまで様々な種類の曼茶羅が存在しますが、原点はこの両部曼茶羅です。真言宗の祖である弘法大師空海上人が入唐した際

に、真言宗の礎となる教えを伝授頂いたけいか惠果和上という高僧がおりました。いわゆる空海上人の師匠であります。この方が日本に帰る空海上人に贈った仏具等の中に両部曼茶羅がありました。それにより、初めて日本に曼茶羅が伝わったのです。

### ・お祀りの仕方

曼茶羅を本尊として行う法要もあるように、曼茶羅とは仏様そのものです。よってお仏壇にお祀り頂くのが一番ではありますが、スペース上の都合でそれが適わないことも多々あると思います。その場合は床の間や飾り棚等にお祀り頂いても構いません。皆様のご家庭を守る仏様としてお祀り頂ければこれ以上の幸いはいりません。どうぞ、お納め頂ければと存じます。